講義名	グローバル経営基礎					授業形態	
担当教員	今西　珠美	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	MAN241

主題と概要

主題：企業の国際的な経営活動に焦点を当てる「グローバル経営」という学問分野の基礎知識と主要理論、研究領域について理解します。

概要：前半（1～10回）は主にグローバル経営にかかわる基礎知識と主要理論を時代背景を踏まえながら捉え、後半（11～15回）はグローバル経営を実践する上で直面する諸相を知ることによってグローバル経営が内包する専門領域を捉えていきます。

国際的に事業を展開する企業や組織のマネジメントの仕組みや経営行動について、経営理論に基づき自ら考え、理解できるようになるための基盤を作ります。将来、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材になるための力をつけます。

到達目標

グローバル経営に関する基礎知識とその研究領域について広く理解し、将来、国際的な舞台で活躍し、社会に貢献できるような人材になるという本学のディプロマ・ポリシーの１つを満たすための基盤を築きましょう。

提出課題

課題を提示する場合があります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業時や解答例を提示する際に講評します。

評価の基準

学習成果（理解度）と学習意欲を評価します。
出欠はとらず、定期試験および取り組む姿勢、理解度を評価します。
定期試験（85%）、学習意欲・学習態度（15%）を予定しています。

履修にあたっての注意・助言他

①教科書は必須です。教科書に沿って授業を進めます。授業時には手元にあるようにしてください。
②本授業では録画、録音、写真撮影を禁止します。

教科書

.『コア・テキスト　国際経営』.	大木清弘	新世社	2750	9784883842667

参考図書

.なし.				

その他

浅川和宏『グローバル経営入門（新装版）』日経BP（日本経済新聞出版本部）、2022年。
G.イエット・ギリエス『多国籍企業論　概念・理論・影響』同文舘出版、2021年。
井上真理編『グラフィック　グローバル・ビジネス』新生社、2020年。
江夏健一・桑名 義晴編『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（第4版）』同文舘出版、2018年。
中川功一・林正・多田和美・大木清弘『はじめての国際経営』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2015年。
安室憲一監修、古沢昌之・山口隆英編『安室憲一の国際ビジネス入門』白桃書房、2019年。
吉原英樹『国際経営論（第5版）』有斐閣（有斐閣アルマ）、2021年。

授業計画

1　国際経営の基礎知識
2　多国籍企業の歴史
3　海外直接投資論
4　プロダクト・サイクル仮説と優位性の移転
5　多国籍企業の組織デザイン
6　トランスナショナル型組織
7　国際的な活動の配置と調整
8　海外子会社論
9　グローバル・イノベーション論
10　国際パートナーシップ
11　国際マーケティング
12　国際生産
13　国際研究開発
14　国際的なサプライチェーン・マネジメント：調達と製販統合
15　国際人的資源管理

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①授業の予習（約120分）
教科書の該当章を読んで授業に臨んでください。事前に読む章の番号は授業回と同じです。
「予習する教科書の章番号」＝「授業回」ということです。
例えば、第３回目に向けた予習では教科書の第３章を読んで授業に備えてください。
②授業の復習（約120分）
授業でキーワードを提示しますので、各々の内容確認を入念に行ってください。
さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。
「その他」の欄に記載している参考文献の利用も推奨します。自ら進んで調べ、理解度を高めましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

国際的な経営の仕組みやグローバルに事業を展開する組織の行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できるようになるための基盤を作ります。国際的なマネジメントに関わる専門基礎知識を習得し、それに基づいてグローバルな経営活動について状況分析を行い、課題や改善策を提案できるようになります。将来、国際的な舞台で活躍し、社会に貢献できるような人材になるための力をつけます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業時間内だけでなく、ウェブも活用して質問や意見を受け付けるなど、コミュニケーションを図っていきたいと思います。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考